

2019年 7月27日 遺伝学講座17 「遺伝について楽しく学ぼう」

毎年夏休みに開催している小学校高学年用の学習プログラム「遺伝について楽しく学ぼう」は今年で17回目になりました。7月の暑い中、子ども20人、保護者10名が参加されました。小学生1年生～6年生の19名、きょうだいで参加した4歳のお子さんも一緒にプログラムを楽しんでもらいました。

まず、PTUの味をみんなで確かめました。
「変な味がする」「全然味がしないよ」とふしぎな表情を見せ、保護者も「私がしないのに、子どもがするってこともあるんですね」と親子でも違いがあることに驚いていました。

そして、味がする人、しない人の数の違いをグラフにまとめました。
“苦い味がわかる”という特徴を、参加者みんなで確かめました。

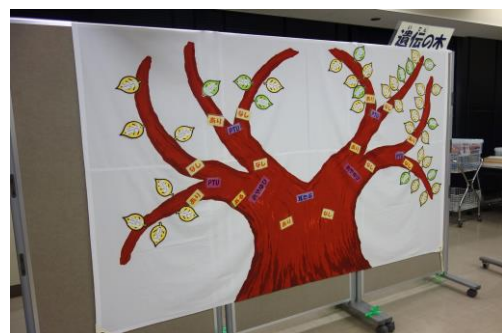
苦みを感じる特徴は、大昔は生きていくのに役に立つ特徴だったかもしれません。今は、あってもなくても良い特徴ですが、祖先から、今私達の時代まで受け継がれてきたということを博士が解説しました。



次は特徴探しを行い、2人の先生の同じところ、違うところをみんなで探して発表しました。はじめは恥ずかしいようで、なかなか発表できませんでしたが、慣れてくるとみんなが元気よく手をあげて「2人とも人間だと思います」「頭があって手足は2本ずつです」「身長が違う!」「男性と女性がいいます」「血液型はどうですか?」と発表してくれました。

その後、“変わる特徴”と“一生変わらない特徴”について考えました。ここでは、遺伝的特徴には、一生変わらない特徴と変わる特徴があり、変わる特徴には“環境”が影響していることを勉強しました。

次に自分のいろんな特徴をみんなで観察しました。真剣になって「巻き舌できるよ」「指が曲がるよ」など自分で見つけて、自分の特徴シートをつくりました。家族で参加した方は、親子での違いに驚いていました。そして、見つけた特徴をつかって遺伝の木を作りました。作りあげた遺伝の木をみて、みんなから「全部の枝に葉っぱがある」「葉っぱが多い枝と少ない枝がある」など、このクラスの遺伝の木の特徴を確認しました。いろんな特徴の組み合わせがあるから、すてきな木になることがわかりました。



最後は、特徴ゲームで、みんな起立し、1 つずつ特徴を言って、その特徴と違うと着席するという内容でした。みんなの前に出て自分の特徴を発表してもらう人をお願いしたら、元気に手を挙げて積極的にゲームに参加してくれました。1 つ 1 つ特徴を言っていくと最後は 1 人になり、同じ特徴の組み合わせを持つ人は誰もいないことを楽しく確かめました。

最後に参加して下さったみなさんに修了証を渡し、写真をとりました。



「楽しかった。もっとやりたかった」「僕とお母さんでも特徴が違うんだよ」「みんな違うからそれでいいんだね」と感想が聞かれ、「遺伝」「特徴」「多様性と唯一性」と難しい言葉の意味が、子どもたちや保護者に伝わったかなと実感できました。元気に最後まで集中して、自分から積極的に参加し、勉強している姿をみて、私たちももっと楽しく学習できる機会を作っていきたいなと感じました。参加してくれたみなさん、ありがとうございました。

報告：遺伝看護・遺伝カウンセリングコース1年 佐藤 信二